

2021年ラウンド4 公式予選1・2

澤龍之介選手が逆転アタックを披露し、雨のSUGOを制してダブルポールを獲得！

Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ) 2021のラウンド4 が10月9日(土)にスポーツランドSUGOで開幕し、77号車の澤龍之介選手(D'station Racing)がポールポジションを獲得しました。



これまでは1大会3レースのフォーマットとなっていたのですが、今回のSUGO大会は2レース開催となり、予選2回・決勝2レースを1日で行うスケジュールとなりました。

前日まではドライコンディションで専有走行が行われていましたが、今日は朝から雨模様となり、ウェットコンディションで午前8時に公式予選1のセッションがスタートしました。

レース10のグリッドを決める公式予選1では、現時点でランキング首位を快走する28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)が好タイムを連発しトップにたちましたが、残り5分を切ったところで、前回富士大会のレース9で初優勝した澤選手が1分32秒519でトップに浮上。次の周回も1分32秒489とタイムを更新してきました。

しかし、残り2分を切ったところで39号車の田中優暉選手(ASCLAYIndサクセスES)がヘアピンコーナーでコースオフを喫した影響で赤旗が出され、そのまま予選1のセッションは終了し、澤選手がFRJで初のポールポジションを獲得しました。2番手には古谷選手、3番手には8号車の三浦愛選手(ARTA F111/3)がつけました。

マスタークラスでは、セッション終盤に1分36秒453を記録した7号車の畑享志選手(F111/3)がクラストップとなり、2番手に4号車の今田信宏選手(JMS RACING with B-MAX)、3番手には田中選手が続きました。

10分のインターバルを挟んでレース11のグリッドを決める公式予選2がスタートしましたが、開始3分のところで古谷選手がSPアウトコーナーの出口でスピンをしてしまい、ガードレールに接触。これにより赤旗中断となりました。

マシンの回収を終え、残り11分13秒でセッションが再開、再び各車がタイムアタックに臨みましました。ここで45号車の大草りき選手（PONOS Racing）が1分33秒141でトップ、澤選手が0.267秒差で2番手につけました。

この直後に畑選手がSPアウトコーナーでコースオフし、ガードレールに接触。再び赤旗が出されました。約12分の中断を経て、残り5分27秒で再開されましたが、今度は3号車の小川颯太選手（Sutekina Racing）がレインボーコーナーでコースオフを喫しグラベルエリアでスタックしてしまつたため、3度目の赤旗中断となりました。

残り3分22秒からセッションが再開され、各車が最後のタイムアタックに臨みましたが、ここで澤選手が渾身のアタックをみせ、1分33秒132を記録。45号車の大草選手を0.009秒の差で逆転し、レース11でもポールポジションを獲得しました。2番手には大草選手、3番手には小川選手がつけました。

マスタークラスでは最後のアタックでタイムを更新した4号車の今田選手がトップとなり、2番手には39号車の田中選手、3番手には96号車のTAKUMI選手（B-MAX ENGINEERING FRJ）がつけました。

・レース10・11 ポールポジション 澤龍之介選手コメント

「本当に良かったです！昨日の最後の専有走行でマシンのフィーリングがだいぶ良くなってきたので、今日の予選に向けては手応えを感じていました。今日は昨日までと違ってウエットコンディションになりましたが、こうして結果を出すことができ良かったですし、この後の決勝に向けても自信になりました。予選2では大草選手が良いタイムを出していて不安でしたけど、レコードラインは水の量が減っている状態だったので、最後の1周がチャンスだと思っていました。すごく集中してアタックに臨みましました。今日は2回レースがありますが、両方とも優勝を狙って頑張ります！」

・レース10 マスタークラスストップ 畑享志選手コメント

「あのまま予選2も走っていたら、クラスストップで終われたかもしれません。ただ、雨のコンディションでも調子は悪くないので、この後の決勝も普通にいけるかなと思います。第10戦に関してはスタートをミスしないようにしたいですね。後ろに下がってしまうと、水しぶきで前が見えづらくなってしまうので。そこでポジションを守れば、ライバルと引き離していけると思うので、まずはスタートに集中していきたいです」

・レース11 マスタークラスストップ 今田信宏選手コメント

「レース10の予選では、アタックに行こうと思ったタイミングで赤旗が出てしまっていたので、自分としてはフラストレーションの溜まる予選でした。予選2では、最後の1周は今までの感覚をもとにベストな走りをしようということで、とにかく一生懸命走りました。ウエットコンディションはどちらかというと好きな方ではあるんですが、昨日までのドライコンディションですごく調子が良かったので、できれば今日もドライコンディションで走りたかったなという思いはありますね。マスタークラスのチャンピオン争いも、まだ可能性としてはあるので、残り4連勝を目指して、まずは決勝もマスタートップで終われるように頑張りたいです」

以上